

かなづかひ教科書

3 1 0 2 6 3 0 0 0 0

5 - 1 1 7

かなづかひ教科書

物集 高見 著



山東省立第一師範學校  
教科書  
物其高見者全

館書圖京東

一	二七	五		
冊	號	架	函	類門



帝國文藝大學教授物集高見美著

# かなづかい教科書全

東京 平尾武藏

昭和十九年四月十六日

## かなづかい教科書

### 例言

一 此書ハ余が東京大學および東京師範學校等にて自ら教へたるかなづかいの書取たるが此度も華族女學校にも用ひらるゝとて勸めらるゝよきまゝかゝり上ホセたり。

一 此書より此式をもちたる時ハ清音濁音音便の三種のかなづかいハ大抵十二時間乃至十五時間をもちて全く教へ得べし。

一 生徒の試験より余ハ常に種々の漢字を與へて傍訓を附しめ或ハ假字違ひの歌文を與へて其正誤を附しめたり。

かなづかい教科書 例言







ちよ、其馴れざる、漢語をやめ、漢字をすく、其やうとくとなり  
ざる、國語と、假字とのみよえ、することあつたが、されむ、先づ、其  
音の、あやまれるを、あきて、其假字より、正さんと、すなり。さて、  
其國語の、數をかぞへ、少なりとも、五萬むかり、ハ、あるべから  
ん、其國語の、假字どもを、ひとりごと、覺ゆるハ、たを、あすかる  
べき、事、も、あらねむ、別、覺え、あすかるべき、一種の、手段を、設  
けざるべからず。こゝよ、先輩の、考へたる、一種の、法あり。其法、二  
つの、紛るべき假字を、取り出で、其一つの、おぼえて、一つの、推し  
量る法なり。抑も、假字の、紛ると、いふハ、よく相似たる、音どもの  
二つあるよ、よなり。されむ、其二つの、よく似たる、音よつきて、其

多きと、少なきとを、較べ、まづ、一つの、少なき方を、よく覺えて、  
さて、今、一つの、多き方のハ、赤とおぼえざる、假字なりと、おぼえ  
る法なり。例、む、いの假字を、書くべきを、二百五十一して、あ  
の假字を、書くべきハ、十七なれば、あ、の、いより、少なきこと、十分の  
一より、至らざる、割合なり。然る時ハ、其少なき、あの方のを、お  
ぼえあきて、其他のハ、おぼえあつざる、方のなれば、かならず、い  
の假字なりと、推しをかり知る、類の如し。

かなづかひの、こゝから。

假字づかひを、こゝから、バ、清音の假字、濁音の假字、音便の假字、字  
音の假字の、四種よ、こゝから、べし。其うち、字音の假字ハ、其數、少



からねむ、用ふべき節々も、考がく見えて、馴れておぼゆるを、よしとすべし。なほ、字音の假字ハ、字音かき、さて、假字の、紛るべきハ、づかひ教科書を見らるべし。

清音の、阿行、也行、和行、波行と、濁音の、佐行、多行とよみて、次の如し。

清音よて紛るべき、假字。但し、○をめぐらし、るハ、全く紛れぬ、假字なり。

阿行      ㊦    い    う    え    お

也行      ㊧    や    ㊨    ゆ    ㊩    よ

和行      ㊪    わ    る    ㊫    る    を

波行      ㊬    を    ひ    ふ    へ    ほ

但し、此うちよて、阿行、也行、和行ハ、ともよみ、喉音なれば、其韻、やをらかよて、紛れ易けれども、あ、や、わ

ハ、互ひよ紛るることなく、まゝよも、紛るることなし。也行の、以、和行の、字ハ、古より、阿行の、い、うと、區別を、立てざれば、まゝ、紛るることなし。波行ハ、詞の上よありて、ハ、紛れず、中と下とよ、ある時、阿行、也行、和行のよ、紛るることあり。

濁音よて紛るべき、假字。但し、○をめぐらし、るハ、全くまぎれぬ、假字なり。

佐行      ㊭    ぢ    ず    ㊮    ぞ

多行      ㊯    ぢ    づ    ㊰    ど

おぼゆるべき、假字

假字の紛るべきハ、上より、如くなれど、其すくなき方、即ち







すくろえ

條、木の枝の、すくろのびくろ、のびくろ。此假字、古書に見えず。延喜式のもの、たかかをうねむ、今ハ本居翁の、すくろえ(末枝)なり。

たろむ

撓、あひりてをうけて、下よ。たろむ、撓、たろむたる、撓む。字鏡(削、多和牟)。

たろむか

嬋妍、たろむとて、やせらるかよみゆるさ。假字ハ、次の、たろむかめよ、なすらふべし。

たろむら

俵、米などををりう、さうらぐと。此假字、古書よみえず。今ハ、高田與清の、松屋筆記の、説よよる。

よろし

弱、つよくなし。字鏡、かよろし、弱、よろし、よろし。よろし、假字をなす。

あろ

泡沫、水のうくれうる。あろ、ほ、白塩、あろのごほ。和名抄(白塩、阿和之保) あろゆき、沫雪、あろのごき、まきえ

あろむ

皺、皮の縮みうるむ。あろむ、皺、りぐ。字鏡(酢の、和名抄(皺之和) 於毛豆志和牟)

ひろ

翳、鳥の名。この假字、古書よみえず。されど山家集よ、此鳥の、歌ありて、常よ、かくかきならうり。文字も、翳の字よ似こ。

(みろ)

酒瓮、酒をふる、かめ。日本紀(瀨和)

見れば、語義あらうれて、其假字も、知らるめれども、語義を知らざ



































ぼえおきて、其ほかの、皆えなりと、おぼゆべし。まゝ中と  
下とよある時、ゑととよまざる。されど、こゝも中と  
下とよありて、えとかくべき、かぎりをいひせり。ゑとかく  
よひせり。そのほかの、みま、  
へとかくべしと、こゝまざるべし。

(あえか)  
すえる

かよさく、もの、やをらか、の意。中  
古の語にて、かく、書きならしむ。  
餿、食ひもの、酸くたる。此假字、日本紀の、傍訓よ  
酢を、比伊須由礼流とよみて、須由礼流を、酸く  
たる、意より、いられ、餿、いともよ、也行よと、  
えりとも、すゆる  
とも、いへるなり。

(あこえ)

距、雞の、けづめ。和名  
抄(距、阿古江)

(さくえ)

小筒、酒をいり、筒。東鑑に見ゆ。訓  
すえの、うづりしなるべし。

さぐえ

榮螺、貝の名。和名抄  
(榮螺子、佐左衣)

さすえ

棊、盃の、たぐひ。和名  
抄(棊、佐須衣)

ぬえ

鷓、鳥の名。和名  
抄(鷓、沼江)

たえ

鮓、魚の名。字鏡  
(鮓、波延)

ひえ

蕪、草の名。和名  
抄(蕪、比衣) ひえどり、鶉、鳥の名。蕪をくゝ、鳥  
なるべし。和名抄(鶉、  
比衣  
土里)

ふえ

笛、吹きたらす、りの。のどがえ、吭、のど。和名抄  
(和名抄(笛、布江) 吭、乃無土布衣)

次のハ、ほかの語と結びあひくる、語を、結びを、とて  
見れば、語義あらわれて、其假字も、知らるめれども、今、ひ  
とらの、語のやうにも、なりたるが、あわづ、いひせり。



りりえ

入江、陸の方へ入り  
こみよる、活

かもえ

鴨柄、今の、かちるのこことよや。  
和名抄(鴨柄、加毛衣)

まのえ

甲、十千のうちの、もの。木の兄の意。十千は、木火  
土金水の五行を木の兄弟、火の兄弟とやう  
よ、二つづつよ、  
こけよるなり。

まづえ

下枝、下の枝。古事  
記(志豆延)

ながえ

轆、車の前よ出でよる、柄。長柄の、  
こころ。和名抄(轆、奈加衣)

ひとむえ

藥、木の、まりの、かぶよりよる、りの。孫  
生のこころ。和名抄(藥、比古波衣)

かえぎ

緑、草木の芽の、かえりて  
よる、色。崩黄の、こころ。

此ほかよ、猶とわくづき、也行の下二段、すなをらゆえ  
ゆるゆれと、まらうくづき、まらうくづきの働きたり。此、其

こころを、ごよ、阿行也行の下二段と知る時、えと書くべ

き、自ら知らるるづき、こころなり、なれども、今の、ちかみよ、其

ちわく、用ふづき、ごよを、次よいづせり。

(肖ゆ) 似る。

(あえ) 見え

あえもの(肖  
物)の、たごひ。

得ゆ、こがも  
のよす。

え

得の、たごひ。  
こころえ(心  
得)の、たごひ。

覺ゆ、忘れず  
てあり。

おぼえ

ものおぼえ(物  
覺)の、たごひ。

聞ゆ、耳の心  
よ、知る。

まこえ

よそのまこえ  
(外聞)の、たごひ。

越ゆ、経て  
ゆ。

こえ

やまごえ(山  
越)の、たごひ。

榮ゆ、盛りよ  
なる。

さかえ

くらにのさかえ  
(國榮)の、たごひ。

絶ゆ、つぎ  
切る。

たえ

とたえ(跡  
絶)の、たごひ。















邑のふなをき、船長、船のをき。

をき

箴、機、道具、和名抄(箴、乎佐)

(をき)

譯語、外國の語を、我が國語に移し、我が國語を、外國の語に移す人。日本紀の古訓より。

(をぎ)

鮫、魚の串、よさ、うら、りの。和名抄(鮫、乎佐之)

をぎな

幼稚、いさな、りか。日本紀不賢の古訓より。日本をぎな、幼兒をさな、りか。

をぎむ

治納、静ます。物を、入る、づき所。治納、餘りよ、入る。萬葉集(乎佐平)をぎむ、治納、字、同じ。

をぎをき

る。萬葉集(乎佐平)をぎをき、餘りよ、入る、の、こ。

(をぎをき)

本紀、軌制の、古訓より。日

をき

鴛鴦、鳥の名。和名抄(鴛鴦、乎之)

をき

愛惜、すく、が、古事記(乎志)

をき

韋、皮、和名抄(韋、乎之加波)

をき

折敷、わらけ、な、を、の、す、る、も、折敷の、折り敷きの、つ、ま、り。

をき

教、物の、あり、す。日本紀、竟宴歌(袁志弊)をき、弟子、り、が、を、り、る、人。

(をき)

食、古事記(袁須)をき、食物、假字、あ、り、す。

をき

獺、獸の名。和名抄(獺、乎曾)

(をき)

虚言、偽り。そ、ら、り、す。萬葉集(乎曾)

をき

雄詰、日本紀(烏多鷄盧)をき、た、け、び。

をき

遠、と、ほ、し。と、ほ、き、と、ほ、る。をき、遠方と、ほ、き、方。をき、こ、ち、遠近、あ、る。

をき

伯父、叔父、父の兄弟。和名抄(伯父、乎知)をき、伯父、父の兄。字、鏡(阿伯、夜、乎)



地(おとをぢ) 叔父、父の弟。字鏡(阿叔、爺乎地) おほをぢ、従祖父、父のを

ち。和名抄(従祖父、於保乎知) 老翁、年おひさなる男の尊称。日本紀(老翁、鳥賦)

懦弱 足石歌(乎遅奈伎) 佛(たか) 始めよ、むごむご。おとよをちかへる、おちて、かへる。假字同じ。

をぢ

(をぢをぢ)

をぢ

をぢ

をぢ

をぢ

をぢ

現在、うら。萬葉集(乎都々)

一昨日、昨日の昨日。萬葉集(乎登都日) 一昨年、昨年の昨年。

少女、若きむすめ。古事記(遠登賣)

媒鳥、鳥をとる時、かかちよつ。和名抄(媒鳥、乎度利)

踊、あがる。字鏡(踉蹌、乎止留)

をの

をの

をの

をの

をの

をの

をの

をの

をの

をの

斧、木をきる刀。和名抄(斧乎能) 銚、木をけぐる斧。和名抄(銚天乎乃)

戦慄、あそれあそれ。字鏡(惜乎乃々久)

伯母、叔母、父の姉、父の妹。和名抄(伯母、乎波)

終、まてよなる。萬葉集(乎波里)

甥、兄弟の子。和名抄(甥、乎比)

女下花、草の名。和名抄(女郎花、乎美那閉之)

叫、うめく。現在を、うめく。語、うめく。

時節、とき。その時。日本紀(節字の古訓、よる)

檻、猛獸を、ごめあく。もの。詩大雅(牢字の古訓、よる)

居、まゐる。萬葉集(乎流)







まををす まうす 申 貴き人よ告ぐ。古事記(麻衣須)此假字音便りてハ、まうす。佛足石歌(麻衣須)此假字音

やををら 徐々、あづく。此假字古書に見え。古言梯の説より。

(つぎをまき)

俳優、なつかしき戯、猿樂のたぐひ。日本紀、俳優の古訓より。

あをを

青、藍の色。古事記(阿衰)あををむ。鏡(鮑鮑)阿乎美。字あをがひ、螺鈿青。あをがひ。蝦蟇虫の名。和名抄あをの貝の意。あをがひ。青蝦蟇、阿乎加閉流。あをのり、陟釐海苔の名。和名抄あをひくさ。蒼生、日本鳥比等。あをむし。螟蛉虫の名。和名久佐。あをむし。抄、螟蛉、阿乎無之。

(あを)

襖子、衣の名。假字ハ、次のあをを。襖子、和名抄(あを)の例より。あをを。襖子、阿乎之。功勳、りよきあをを。日本紀、竟冥歌(哀装鳥)あをを。夏、あをを。日本紀、竟冥歌(伊佐哀志久)

いさをを

魚、水よすめら、鱗と、鱧とある。いさ、とびを、鱧魚。の字鏡(魚伊乎)古事記(宇衰)の字。飛びつを、の約り。ひを、水魚魚の名。水いさを、の約り。字鏡(鱧刀比乎)ひを、水ハ、ひとりの字鏡(鱧比乎)を、針魚魚の名。針いさを、の約り。比、を、針魚魚の名。針いさを、の約り。名、堅いさを、の約り。なうを、約れ。あをを。白魚、魚の名。つとを、和名抄(鱧加豆乎)あをを。名、白うを。の、列を省けるなり。すべて、列を省くことあり。おほうみ(大海)を、おほみ、あをを、うめ(青梅)をあを。めといふ、たぐひの如し。いさをめ、脱手足より。いさを。和名抄(鮑之呂乎)いさをめ、脱手足より。いさを。和名抄(脱目、以乎女)いさをめ、脱手足より。いさを。和名抄(長き竹、和名)からがを、連柳、稻をうり、道具、唐抄(橋、佐乎)からがを、竿のくさ。和名抄(連柳、加良)みさを、水竿、船をつかふ。竿。佐乎)みさを、水竿、船をつかふ。竿。事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)

いさをを

十、数の名。古事記(登哀)



















ず

この假字に上中下のこゝろをぬかへりてふもてなづよま  
きる。されど、くゝよひ、ずと書くべし、かぎりのをりてんはり。此  
かのこ、皆づと書くべし。  
しと、ひきまゝふべし。

ず 不、うちけしの現  
在の、こゝろを

ずき 從者、とびびる。從者  
の、字音の假字。

(らづまゝまる) 群集、むらがりありまゝる。  
古事記(宇受須麻里)

すまき 鱸、魚の名。古事  
記(須受岐)

すまじ 涼、あつさをすくす。すまじ、納涼、あつさを避  
萬葉集(須受之)

すまめ 雀、鳥の名。和名  
抄(雀須々米)

すまら 漫、何となく。あつから。おぼえず。引  
ぞらと、同語をれば、假字を、ずなり。

たづむ 彷徨、たづむけらふ。そこを離  
れずて、居る。萬葉集(立住)

なづらふ 準、鏡(准奈須良不)  
鏡の名。和名

ねづみ 鼠、獸の名。和名  
抄(鼠、祢須美)

うづ 髻華、冠の、かざりよさず、  
もの。古事記(宇受)

かづ 數、多きと、少きとをい  
ふ語。萬葉集(加受)

きづ 疵、物よつきとる。か  
け。萬葉集(幾受)

くづ 葛、草の名。和名抄(葛穀  
久須加豆良乃美)

す 錫、金をり。一種の、金。續日本  
紀、白鐵の、古訓よる。

す 鈴、振りてなりす。か  
ね。古事記(須受)







あした朝をあひを

くし串をくし

あぶし験をあぶい

十三

かをうと書

かぶり冠をかぶり

くをうと書

か子簡をか

さ子冊をさ

あぶし験をあぶい

あてなよ響をあてな

あてなよ私をあてな

あてなよ遠近親疎

あてなよのたぐひ皆あてな

あてなよ拍をあてな

あてなよ族をあてな

あてなよ漸をあてな

あてなよ寒速近親疎

あてなよをうと書

あてなよ草をか

あてなよ皮をか

あてなよ編をか

あてなよをうと書

あてなよ東をあてな

あてなよ妹をあてな

あてなよ策をあてな

あてなよ方をか

あてなよ田舎をあてな

あてなよ高麗をあてな

あてなよ兄をあてな

あてなよ仙をあてな

あてなよ稀をあてな

あてなよ箒をあてな

あてなよ鞆をあてな



ふを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

ほふし。法。を。ほ。う。し。

へを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

まつ。し。ま。み。卿。を。ま。ら。う。ら。ま。み。

ほを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

なほし。直。を。な。ら。う。し。

まを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

たまを。ら。賜。を。た。ら。う。ら。う。

みを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

かみが。き。髪。を。か。ら。う。が。い。

たら。う。ら。う。候。を。た。ら。う。ら。う。

しか。ま。ら。う。ら。う。仕。を。し。か。ら。ま。ら。う。ら。う。

なほら。う。ひ。直。を。な。ら。う。ら。う。ひ。

こみ。ち。小。路。を。こ。ら。う。ら。う。

かみつ。け。野。上。か。ら。う。つ。け。

こみ。づ。水。手。を。こ。ら。う。づ。

かみべ。戸。神。を。か。ら。う。べ。

むを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

かむな。ぎ。巫。を。か。ら。う。な。ぎ。

かむし。柑。を。か。ら。う。し。

りを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

とりで。取。を。と。ら。う。で。

るを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

まら。う。で。參。を。ま。ら。う。で。

をを。ら。と。書。  
くづ。き。例。

ひむ。か。日。を。ひ。ら。う。が。

たむ。け。手。を。た。ら。う。け。



まをす申をまうす

○長聲の音便

十三 長聲の音便といふ音を長くひききて呼ぶためよりける響をいふ。さて、其響の假字もいといふ。とを用ふ。たといふ詩歌ハ、志かなるを、其志を長くひききて呼ぶ。志。か。志。あ。か。志。ひ。か。の。如。く。響くも、志。い。か。と書き、（家司）をけしと書く、たごひ 八日ハ、やかなるを、其やを長くひききて呼ぶ。よ。や。か。や。あ。か。や。を。か。の。如。く。響くも、や。か。と書く。（佐官）をさく、くわん、たごひ、よくらん、（女官）をじょくわん、たごひ、（賜）をたぐ、あく、（設）をまろく、よきり、（夜）をよ、ろさう、ほご、（反故）をほご、と書く、たごひ、 まご、この長聲よを、ゆといふをも、用ふるこゝあり。六日ハ、むかなるを、むか。と呼

びて、今ハ、むか。を、むか。の如く、呼びをせり。ゆといふ聲を、ゆといふ音便なり。

かたしかり教科書終



明治十九年三月三日版權免許  
同 三月廿二日版權讓受御届  
同 四月十二日開版

定價金拾五錢

著者

物集高見

大分縣士族

東京本郷區弓町二丁目艾菴

出板人

平尾錦藏

東京府士族

東京四谷區四谷尾張町九番地

發兌人

十一堂

明石範貞

東京京橋區南銅町二丁目三番地

同

中央堂

宮川保全

東京神田區猿樂町三丁目一番地



賣捌所

吉田金造

東京日本橋區上横町八番地

同

三木佐助

大坂心齋橋通

鑄工

大谷信夫

東京本所區三笠町五拾四番地

貫







